

虹の松原は日本一の松原です

虹の松原は約400年前に、農地を潮風や飛砂から守るために植林された人工の森です。全国には、同じ目的で海岸に作られた松原（海岸林と言います）がたくさんあります。

三大松原とは？

三大松原は 虹の松原、三保の松原（静岡県）、気比の松原（福井県）または舞子の松原（兵庫県）です。ちなみに天の橋立は日本三景（松島、宮島、天の橋立）の一つです。

虹の松原はその中で最も美しい松原です。

名 称	所在地	幅 (m)	長さ (k m)	面積 (h a)
虹の松原 (にじのまつばら)	佐賀県	400 ~ 700	5	230
三保松原 (みほのまつばら)	静岡県	70	5	34
気比の松原 (けひのまつばら)	福井県	400	1	32
天橋立 (あまのはしだて)	京都府	20 ~ 150	3	25

日本で一番広い松原は、青森県の屏風山（びょうぶやま）保安林で3000haあります。九州で一番広い松原は鹿児島県の吹上浜で1400haです。

三保の松原は太平洋側にあり、富士山を背景にした風景がきれいです。ここには天女の羽衣伝説で有名な「羽衣の松」があります。樹齢は70～80年。



羽衣の松

気比の松原は日本海側にあり、アカマツとクロマツが混在し、アカマツが目立つ松原です。樹齢は10～200年。

天橋立は宮津湾の砂嘴に形成され、「天のかけ橋」と称されるクロマツ林です。2004年の台風23号によって大きな被害を受けました。

兵庫県の舞子の松原（まいこのまつばら）は都市化と明石海峡大橋の建設に伴って、今はかつての面影がわずか残っているだけです。

虹の松原の歴史

虹の松原は、400年前に唐津藩主寺沢志摩守によって植林された松原です。昔は「御松原（おんまつばら）」や、その長さ（約8 km）から「二里の松原」と呼ばれていました。いつの頃からか「虹の松原」と呼ばれるようになりました。

紀元前200～300年 海岸砂丘が形成された

500年頃

諏訪姫の伝説

松浦佐用姫伝説

1590 天正18年 豊臣秀吉全国統一

1592 文禄元年 名護屋城完成、秀吉松原に茶亭をつくる。

1595 文禄4年 寺沢志摩守広高（てらさわしまのかみひろたか）唐津藩主となる。

1602 慶長7年 唐津城築城、この頃から砂浜に松を植林

1616 元和2年 この頃までに松原完成

1762 宝暦12年 水野和泉守忠任唐津へ

1771 明和8年 虹の松原一揆

1941 昭和16年 太平洋戦争

1955 昭和30年 虹の松原 国の特別名勝に指定

海風を防ぐために行なわれたマツ植林の始まりは1573～1591年に行われた千本松原（静岡県）の植林と言われていいます。松原は植林してすぐに完成したのではなく、その機能を発揮するようになるまでは、30～100年かかったと思われまます。

海岸林は、松原の端から樹高の約20～25倍の距離までの農地や宅地を守っています。マツの高さは20～25mですから、守られている範囲はおよそ虹の松原と鏡山に挟まれた地域です。

また、高田松原や風の松原が津波の被害を軽減したことから、スマトラ沖地震による津波被害を受けたスリランカに日本の植林技術によって海岸林が造られるそうです。

文化財保護法によって記念物のうち特に重要なものとして指定されたものが「特別名勝」と呼ばれています。虹の松原以外には、碁石海岸（岩手県）、松島（宮城県）、天橋立（京都府）などが特別名勝に指定されています。

日本には三大松原の他に、五大松原、筑前八松原と呼ばれている松原があります。

虹の松原を題材にした物語

1．寺沢志摩守の7本の松

松原の中に殿様が気に入った松が7本あった。どれかは言わないが、もしそれを切ったら死罪にするというおふれを出した。あるとき、不注意で松を切ってしまった者がいた。死罪を覚悟していたところ 殿様は「その松は余の7本の松ではない」と罪を許した。その恩情に住民は感銘を受けて、それから一層松原を大切にしたという。

この話の詳細は唐津城の中に紙芝居で紹介されています。

2．勘右衛（かんね）どんの松葉買い

江戸時代の話である。そのころ唐津の町には焚き付けにする「松葉売り」がいた。松葉売りは虹の松原の落ち葉を掻き集めて、四角に固めて売っていた。かんねどんは松葉売りに買った四角に固めた松葉を狭い路地の先の小屋に運び入れるように言った。ところが道が狭いので、路地のあちらこちらにぶつかり、荷崩れしてしまい、松葉を路上に落としてしまった。かんねどんは壊れた四角の松葉の受け取りを断った。そして路上に散らばった松葉を拾って焚き付けにしたという。

この話は富岡行昌氏の「唐津かんねの話」という本に載っています。

3．松原一揆

江戸時代の1762年（宝暦12年）新たに唐津藩主となった水野忠任は財政赤字の解決のために、農民への増税政策を計画した。このような時、農民の生活苦しさを直訴した金助、吾助の兄弟が死刑になった。平原村の大庄屋富田才治は農民の苦境を救済するために百姓一揆を指導した。1771年（明和8年）に虹の松原に1万5千人（2万5千人とも）の農民が結集した。5日間の百姓一揆は「松原寄り」と言われた。

唐津藩は結局、増税撤回の農民の要求を受け入れることになったが、富田才治はその責任を負って虹の松原の満島入り口で処刑された。

この間、農民たちは虹の松原の松林を身の隠し場所として利用し、また虹の松原内に設けられた藩境を巧妙に行き来して、追求をかわしたと言われている。

